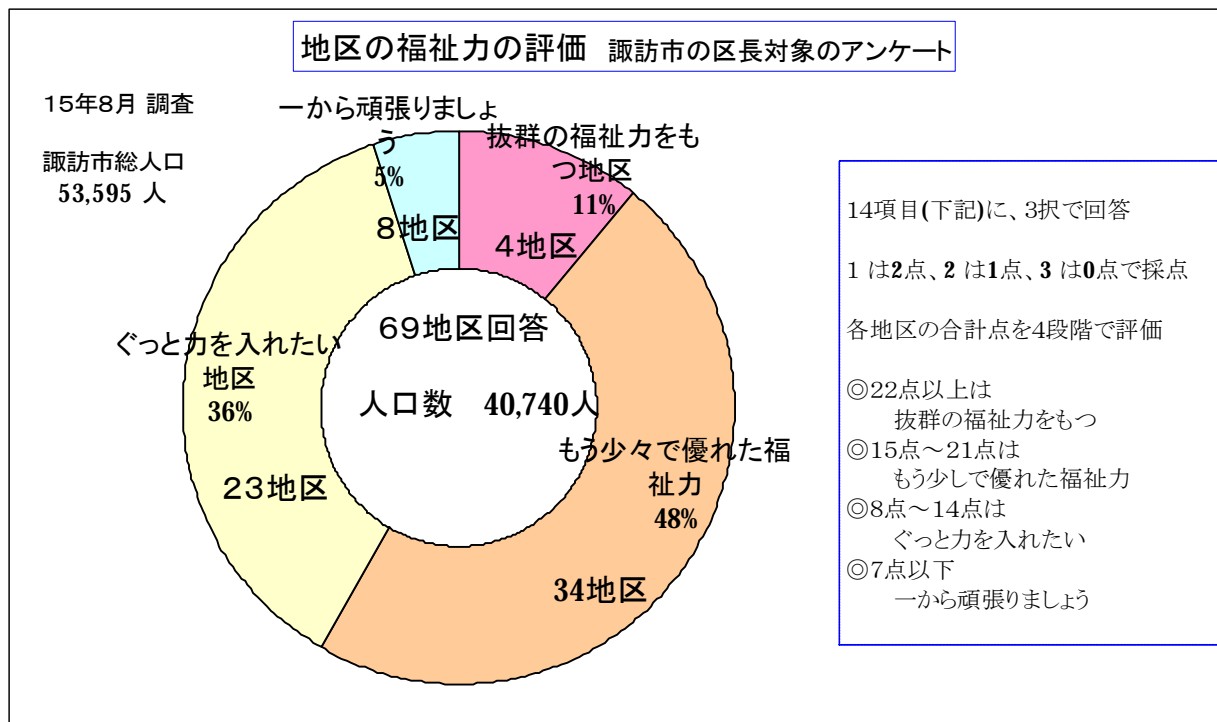


『あなたの地域の福祉力ほどの程度』

～地区福祉力簡易評価スケールによる～  
 諏訪市 福祉のまちづくり市民協議会

A 地域の福祉力の自己評価



B 福祉環境のすすみ具合についての自己評価

地区内の福祉環境のすすみ具合

諏訪市内の区長を対象に行ったアンケートに回答のあった69地区を集計 平成15年8月実施

	1 うまく行われている	2 部分的にはある	3 ほとんどない	合計点	平均点 (2点満点)
福祉活動を行う拠点があるか	57	8	4	122	1.77
福祉サービス・福祉制度を利用することの抵抗感	44	25	0	113	1.64
困っているときに助け合う気風が全体的にあるか	25	38	6	88	1.28
福祉問題の相談ができる人がいるか	14	50	5	78	1.13
地区内のボランティア組織があるか	36	3	30	75	1.09
一般行事の中に老人・障害者への配慮があるか	21	32	16	74	1.07
福祉問題を企画・推進したりする組織があるか	29	9	31	67	0.97
福祉問題の研修会・学習会・懇談会・講習会等は	25	14	30	64	0.93
福祉制度・サービスについて機関紙その他の周知	18	23	28	59	0.86
老人・障害者世帯が困っている問題を近隣の人が見つけたとき知らせる連絡ルートがあるか	7	43	19	57	0.83
ひとり暮らし老人や障害者が集う機会があるか	13	25	31	51	0.74
すべての老人世帯の緊急事態に対応できるか	11	23	35	45	0.65
医療・保健・福祉等の専門機関との頻繁な連絡・連携	2	33	34	37	0.54
福祉問題についての行政への意見具申を行ったこと	3	16	50	22	0.32

注) 各項目の合計点は1を2点、2を1点で計算

## C 『地域内の福祉環境のすすみ具合』の分析と考察

### 1 福祉サービスを利用する抵抗感は無くなってきた

かつて、世間のお世話にはなりたくないという、福祉サービス利用への抵抗感がありましたが、「全体的にほとんどない(2点)」が3分の2を占め、「根強く残っている」という地区は0でした。一人暮らし老人や高齢者夫婦の増加という差し迫った環境や、介護保健制度の利用の普及したことが、その背景にあると考えられます。

地区数	2点	1点	0点	合計点	平均点
福祉サービス・福祉制度を利用することの抵抗感	44	25	0	113	1.64

### 2 困っているときに助け合う気風は薄れてきている

気風が全体にある(2点)と答えた地区は3分の1足らずでした。よく云われるように、よい意味では干渉し合わないが、助け合いの気風は薄れて来たと言えます。住みなれたわが家や地域で暮らし続けられるためにも、助け合いの気風を育てて支え会える地域づくりをすすめることはこれからの課題と言えます。

困っているときに助け合う気風が全体的にあるか	25	38	6	88	1.28
------------------------	----	----	---	----	------

### 3 困った人がでたときの緊急事態への対応や連絡ルート、相談窓口などについて、地区内の体制整備が遅れている

地域生活では是非とも必要なことで、自治会として整備しなければならない課題ですが、全体的にある(2点)と答えた地区は15%足らずで、取組の遅れが目立ちます。

すべての老人世帯の緊急事態に対応できるか	11	23	35	45	0.65
老人・障害者世帯が困っている問題を近隣の人が見つけたとき知らせる連絡ルートがあるか	7	43	19	57	0.83
福祉問題の相談ができる人がいるか	14	50	5	78	1.13

### 4 地域内でのボランティア組織づくりはこれからの課題

ふれあいサロンなどの活動が市内の各地区で広がりつつありますが、活動の中身を含めて、まだまだこれからの課題といえます。

地区内のボランティア組織があるか	36	3	30	75	1.09
------------------	----	---	----	----	------

### 5 区自治会としての福祉問題への組織的な活動が遅れている

高齢社会を迎え、区自治会が組織的に取り組まなければ解決できない福祉の問題は沢山あります。アンケートの項目に関してだけでも、ほとんど手つかずの地区が沢山みられますので、これからの大きな課題と言えます。諏訪市の場合、福祉活動の拠点になりうる公民館が各地区に整備されているのは強みです。

一般行事の中に老人・障害者への配慮があるか	21	32	16	74	1.07
福祉問題を企画・推進したりする組織があるか	29	9	31	67	0.97
福祉問題の研修会・学習会・懇談会・講習会等は	25	14	30	64	0.93
福祉制度・サービスについて機関紙その他での周知	18	23	28	59	0.86
ひとり暮らし老人や障害者が集う機会があるか	13	25	31	51	0.74
医療・保健・福祉等の専門機関との頻繁な連絡・連携	2	33	34	37	0.54
福祉問題についての行政への意見具申を行ったこと	3	16	50	22	0.32
福祉活動を行う拠点があるか	57	8	4	122	1.77

## D 市内4地域の中に福祉力の差は無かった

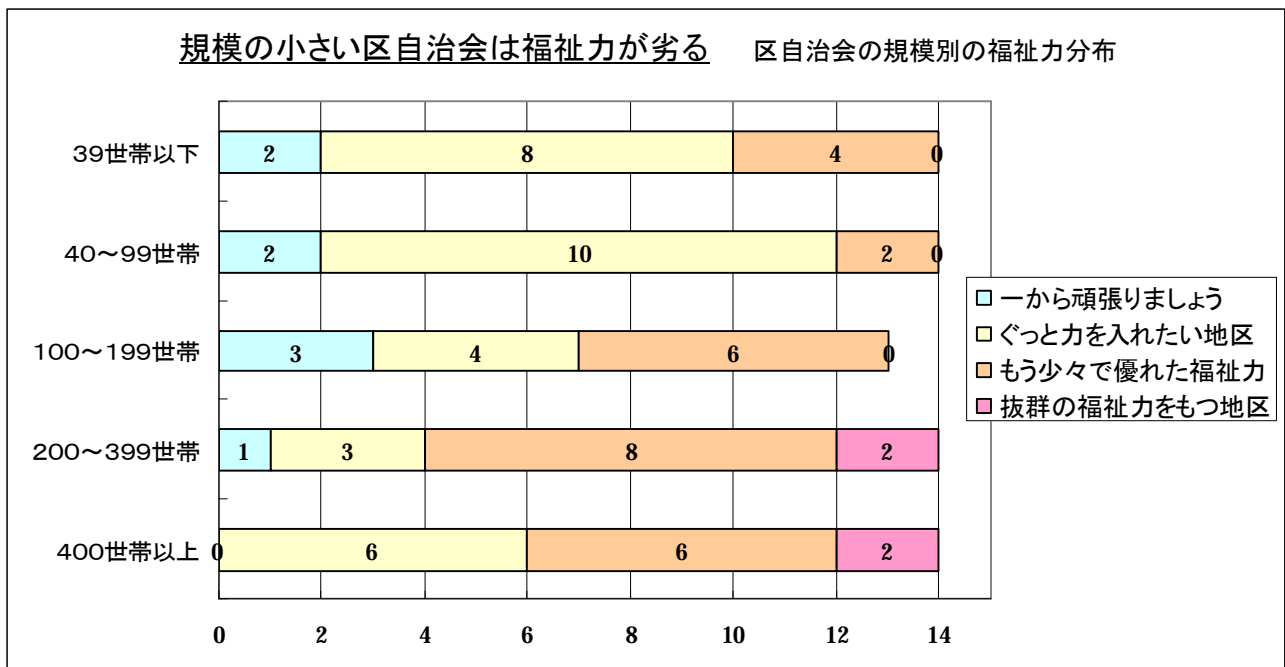
	上諏訪	豊田	四賀	中州	湖南
抜群の福祉力をもつ地区	2	1	1	0	0
もう少々に優れた福祉力	18	1	1	3	3
ぐっと力を入れたい地区	23	0	3	4	1
一から頑張りましょう	4	0	2	1	1

### [考察]

福祉力の分布について、上諏訪地区と他の地区とで比較してみた。豊田地区は回答数が少ないので考察の対象から外したい。湖南地区の福祉力のやゝ強いのが目立つが、上諏訪地区と他の地区の間には、福祉力の分布に大きな違いはなかった。

## E 100世帯以下の規模の小さな区自治会についての分析

### E-1 小規模の区自治会は福祉力が劣る

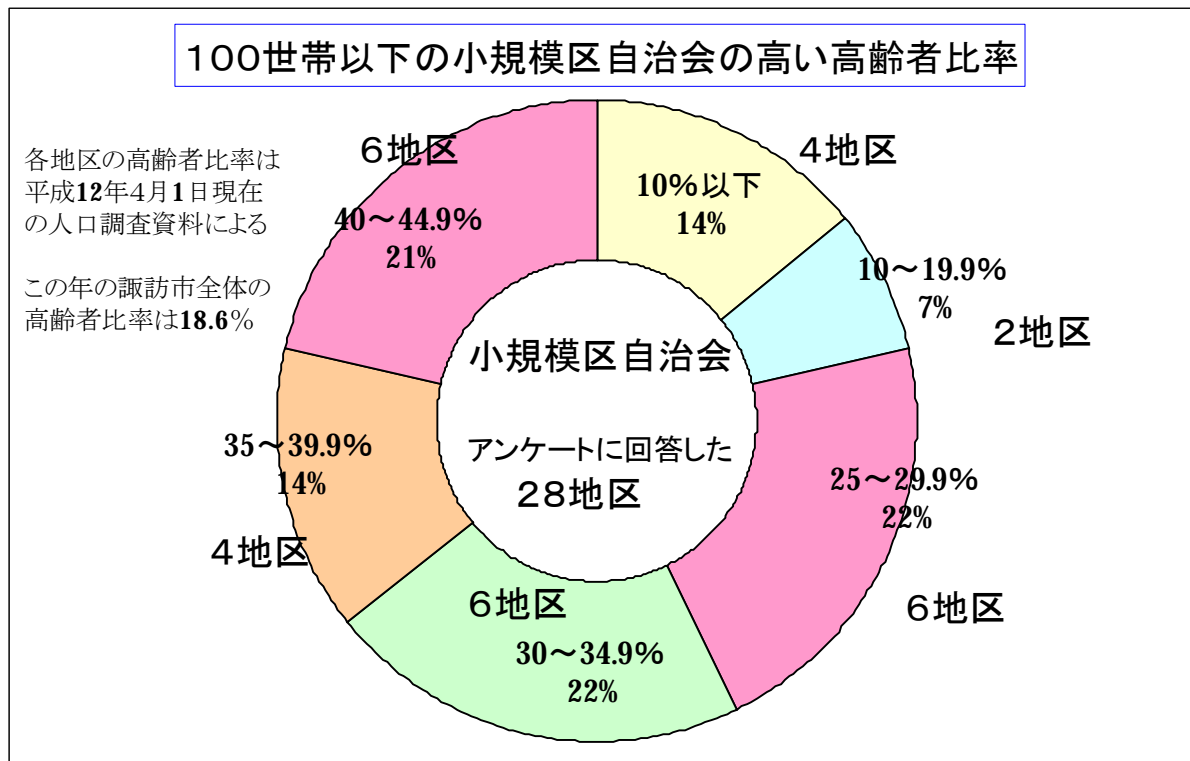


### [考察]

回答のあった区自治会を、世帯規模別に分けてそれぞれについて福祉力の分布をグラフにしたものです。上諏訪地区などに多い規模の小さい区自治会の福祉力の評価が低いのが特徴的です。これらの地区では高齢者の比率が30%をこえる所も多く、こうした地域の福祉力をいかに高めて行くかがこれからの大きな課題です。

規模の大きい区自治会も地域の福祉への取組はまだ十分とはいえません。小規模の所と同様に区内の福祉への取組を点検して福祉の地域づくりをすすめたいものです。

## E-2 小規模の区自治会は高齢者比率が高い



### [考 察]

平成12年における諏訪市全体の高齢者比率は18.6%でしたから、高齢者の比率25%以上の地区が22地区で79%を占めるということに、この小規模区自治会の特徴を読みとることができます。

回答のあった小規模区自治会28地区のうち、高齢者比率が30%以上という超高齢化の所が16地区で57%を占めています。高齢者比率が40%以上という想像をこえるような超高齢化の地区だけでも6地区あります。小規模自治会が多いのは上諏訪の旧中心市街地ですが、前述のように小規模区自治会の地域福祉力が弱いのが現状ですので、今後はこの地区の地域福祉の充実が大きな課題といえます。

なお、10%以下の4地区は、いずれも上諏訪郊外の新しい小規模団地です。

### E-3 小規模の自治会の福祉力の弱い所はどこか

—100世帯未満の28区自治会と、100世帯以上41区自治会の平均点の比較—

各項目について規模別に比較	1自治会の平均点		平均点を指数化して比較	
	100世帯以上の自治会	100世帯未満小自治会	100世帯以上の自治会	100世帯未満小自治会
(仮に全自治会が2点満点のとき)	2.00	2.00	100	100
福祉サービス・福祉制度を利用することへの抵抗感	1.56	1.75	100	112
困っているときに助け合う気風が全体的にあるか	1.29	1.29	100	99
福祉制度・サービスについて機関紙その他での周知	0.88	0.82	100	94
福祉活動を行う拠点があるか	1.83	1.68	100	92
福祉問題の相談ができる人がいるか	1.17	1.07	100	92
すべての老人世帯の緊急事態に対応できるか	0.68	0.61	100	89
一般行事の中に老人・障害者への配慮があるか	1.15	0.96	100	84
医療・保健・福祉等の専門機関との頻繁な連絡・連携	0.63	0.39	100	62
福祉問題の研修会・学習会・懇談会・講習会等は	1.10	0.68	100	62
ひとり暮らし老人や障害者が集う機会があるか	0.88	0.54	100	61
老人・障害者世帯が困っている問題を近隣の人が見つけたとき知らせる連絡ルートがあるか	1.00	0.57	100	57
福祉問題を企画・推進したりする組織があるか	1.20	0.64	100	54
地区内のボランティア組織があるか	1.39	0.64	100	46
福祉問題についての行政への意見具申を行ったこと	0.46	0.11	100	23

#### 1 福祉サービスを利用する抵抗感は大中よりむしろ少ない

かつて、家族以外の世間のお世話にはなりたくないという、福祉サービス利用への強い抵抗観が日本社会にはありました。高齢者が高率になっている100世帯未満の小規模区自治会では、大中の自治会より抵抗感が少なくなって、平均点1.75となり意識的にはほぼ抵抗感はなくなったといえます。一人暮らし老人や高齢者夫婦の増加という差し迫った環境や、介護保健制度が始まってその利用の普及したことが、その背景にあると考えられます。

#### 2 困っているときに助け合う気風では、大中と殆ど同じ程度

平均点で両者とも1.29と違いが見られません。小規模の方が助け合いの気風が強いように考えられますが、アンケート結果では両者に差が見られませんでした。

#### 3 地域としての組織的な支援体制で大きな差が出る

小規模区自治会の指数が、大中を100として3分の2に当たる66以下になる項目は、14項目中の半分7項目に達しました。いずれの項目も地域の組織的な福祉活動に関するものです。各項目の点数でみても、2点満点の0.7以下と低く、しかも大中のほぼ半分の点数です。高齢化がすすみかつ小規模のため、組織的な福祉活動の面で遅れをとっています。

公的サービスと共に、住民による助け合い支えあいの組織的な支援活動が必要とされる地域福祉の時代になりました。高齢化がますます進むなかで、これらの地区は、アンケート項目のような組織的な福祉活動がとりわけ必要とされてきます。こうした地区の地域福祉を、今後いかに推進するかは諏訪市独特の大きな課題といえます。

以上